

## 上田高校卒業式に参列 3月3日

上原 昇（関東同窓会会長、65期）

初春を思わせる暖かな3月3日(土)の午前、母校の卒業証書授与式に来賓として参列してきました。母校を訪れると校門前のお濠沿いに多くの父兄(保護者)が長い列を作り入場を待っていました。門を潜るとまず目に入るのは、色鮮やかな和服と袴姿で着飾った女生徒たちで、我々の時代とは全く違う風景です。

今年の116期卒業生は母校がSGH(Super Global High School)指定第1期生で、人数は全日制が8組、317名、定時制が31名、計348名、男女別には若干女生徒の方が多いとのこと。

卒業生クラス代表に証書が授与されたあと、今年3月末で退任予定の内堀繁利校長(74期)から送る言葉が。内堀校長は式辞の終わりに長渕剛の“乾杯！今君は人生の大きな大きな舞台に立ち 遥か長い道のりを歩き始めた 君に幸せあれ”を朗々と歌い上げたのには驚きました。思わず拍手をしたかったのですが、厳粛な雰囲気の中で拍手は出来ずじまいでした。

もうひとつ驚いたのは、新1、2年生(在校生)の姿が殆ど見えないこと。聞いてみましたら、当日が土曜日であることと、保護者の出席があまりに多いので代表以外の在校生は出なくてよいことにしたそうです。これも少子化時代のなせる現象かと思いました。

来賓代表で挨拶にたった同窓会理事長の金子元昭さん(68期)からは、卒業生に対し各地の同窓会への参加の呼びかけがなされました。

若々しい集団の中に身を置いて、新鮮な気持ちで母校を後にしました。

【卒業式の日、古城の門にて】

